

「当たり前」を支える

＜下＞

トラック物流危機

神奈川の現場から



トラックの機能を紹介する飯沼社長
＝県立平塚工科高校

昨年末、県立平塚工科高校の校門前スペースには3台の大型トラックが止まっていた。日本に約500台しかない小容量専用のバルクローリーが1台、そして、側面の扉が鳥の羽のように開く「ウイング車」が2台。生徒たちが代わる代わる乗り心地を確かめ、運転手と会話を交わす。

味が出てきた」と生徒たちは少しずつマッチングの成功例も出てきているという。また、県も「物流業界における新たな担い手育成事業」を展開。大型免許などの取得費用を県が負担する施策を実施している。

支援施策も

同協会の経営改善委員会委員長を務める、富国運輸の飯沼健史社長は出前授業に毎回トラックを出している。「トラックは生活に欠かせない物資を運ぶと同時に、災害時の緊急輸送の役目も担っている。ライフラインを支えていることも理解してもらいたい」

は少しずつマッチングの成功例も出てきているという。また、県も「物流業界における新たな担い手育成事業」を展開。大型免許などの取得費用を県が負担する施策を実施している。

県トラック協会は2014年から、トラック運送への関心を持ってもらえるよう、県内の工業高校向けに「物流出前授業」を実施。トラックの役割について解説すると同時に、実際にトラックに触れてもらう時間を設けている。「視界が高くて驚いた。運転技術の高さが実感できた」「きつい仕事だと思っていたけれど、イメージが変わり、興

同協会の経営改善委員会委員長を務める、富国運輸の飯沼健史社長は出前授業に毎回トラックを出している。「トラックは生活に欠かせない物資を運ぶと同時に、災害時の緊急輸送の役目も担っている。ライフラインを支えていることも理解してもらいたい」

は少しずつマッチングの成功例も出てきているという。また、県も「物流業界における新たな担い手育成事業」を展開。大型免許などの取得費用を県が負担する施策を実施している。

県トラック協会は2014年から、トラック運送への関心を持ってもらえるよう、県内の工業高校向けに「物流出前授業」を実施。トラックの役割について解説すると同時に、実際にトラックに触れてもらう時間を設けている。「視界が高くて驚いた。運転技術の高さが実感できた」「きつい仕事だと思っていたけれど、イメージが変わり、興

同協会の経営改善委員会委員長を務める、富国運輸の飯沼健史社長は出前授業に毎回トラックを出している。「トラックは生活に欠かせない物資を運ぶと同時に、災害時の緊急輸送の役目も担っている。ライフラインを支えていることも理解してもらいたい」

は少しずつマッチングの成功例も出てきているという。また、県も「物流業界における新たな担い手育成事業」を展開。大型免許などの取得費用を県が負担する施策を実施している。

プライドを

荷主への理解も少しずつ

（太田 有紀）

飯沼社長は社員に呼び掛けてい

広がっている。家電量販店のノジマ（横浜市西区）は17年11月、配送パートナーへの支払い水準を増やすことを決めた。同社では配送協力パートナーに依頼する荷物の量が毎年増加傾向にある。「協力パートナーの従業員と同様に質の高いサービスを提供してもらうため、引き上げを決めた」と担当者は話す。配送コストの増加は消費者に転嫁せず、社全体の経営削減を進めることなどで影響を削減したという。

小売店やメーカーの一部では、貨物輸送をトラックから船や鉄道に転換するモーターシフトの実験を始めている。しかし、取り扱える荷量はなお未知数だ。また、高速道路における貨物トラックの自動運転や、ドローンによる宅配便の実証実験にも注目が集まるが「実用化にはまだまだ時間がかかるだろう」と神奈川県立の齊藤実教授も指摘する。

トラックが国内貨物輸送の主役を担う構図は当面、続く見通しだ。「われわれは生活者の当たり前を支えている。プライドを持って仕事をしよう」。飯沼社長は社員に呼び掛けてい